

建設賛否二分の槇尾川ダム

橋下知事が初視察

大阪府の橋下徹知事は6日、府が事業主体の「槇尾川ダム」(大阪府和泉市)建設予定地を初めて視察した。総工費128億円。府は2014年度の完成を目指す

指すが、歳出削減を進める知事が建設計画をいったん白紙にしていた。視察中、知事は「まだ感想を言えるほど情報収集していない」と述べるにとどまり、継続か凍結か中止かを巡って、今後の政治判断が注目される。

現場では「ダムがないと大雨で家が浸水する」と計画推進を求める流域住民側と、「治水効果は極めて限定的。豊かな自然を残すべきだ」と反対する市民団体が詰めかけ、双方が知事に

直訴する騒然とした雰囲気となった。橋下知事は報道陣に「府民の生命と安全を守ることをまず考える。後には(費用などの)バランス」と話した。

同事業は1982年、槇尾川の洪水で、和泉市内の530世帯が家屋浸水の被害を受けたことから計画された。府は07年度までに国庫補助金を含め約35億円を支出、用地買収や周辺道路の整備を進めている。

08年度に13億円の予算を組んでダム本体の建設に着工する予定だったが、橋下知事は08年度だけで1100億円の歳出削減を目標に「全事業のゼロベースの見直し」を掲げ、暫定予算では前年度の契約済み工事費など2億7000万円しか計上していない。7月臨時議会の本予算案提案に向け、6月までに結論を出す考えだ。

